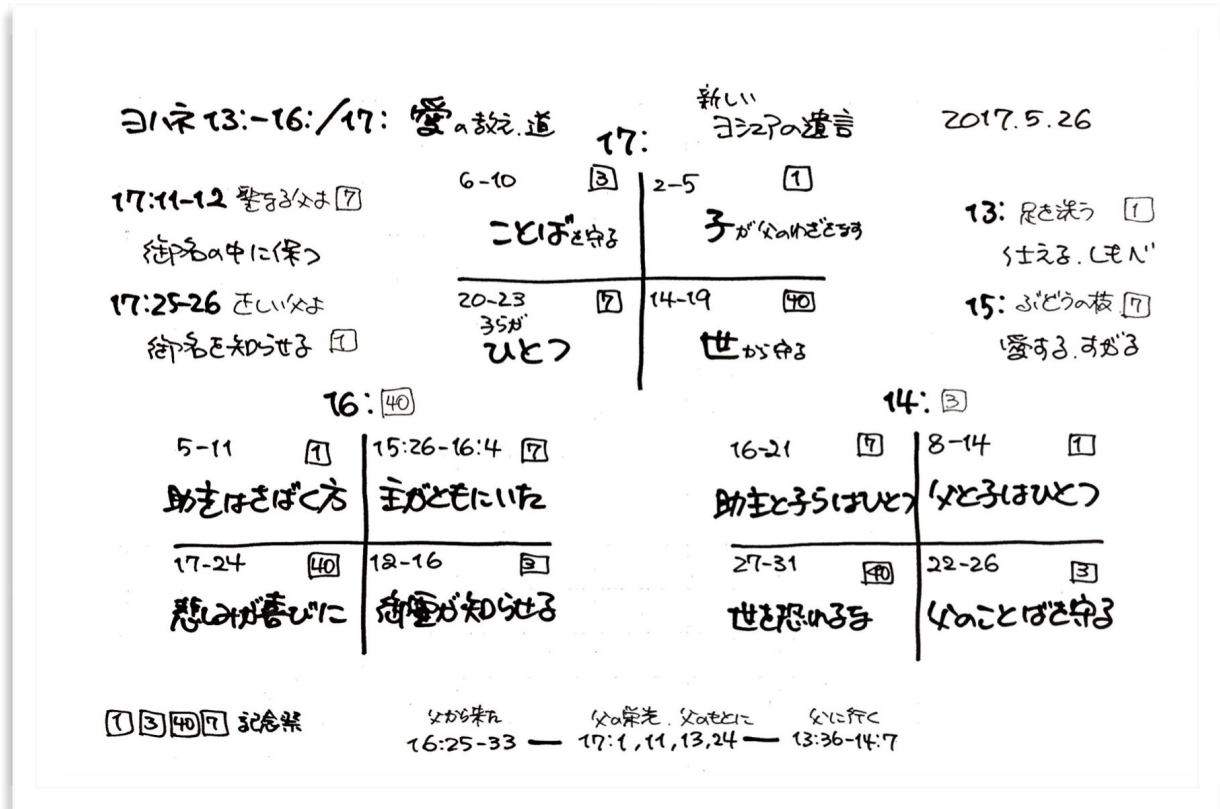




ヨハネ福音書13-16章



ヨハネ福音書の13章から16章までのところを、どういう位置付けになっているのを見ようとしていますけれども、結論のところは17章の祈りです。13章から17章までが愛の教え、新しいヨシヤの遺言というようなものです。

13章と15章の分析は、前にしました。片方(13章)、足を洗うほうが、仕えるしもべ、主に仕えますというところ。15章のぶどうの枝のたとえのところは、主を愛して主にすがりますという教えということで見ていました。

14章…2013年のときに見ていた13章15章というところに、14章の部分と16章の部分が続いているのですけれど、分けることは分けたのですが、どういう形になっているのかということが、わからずじまいで終わっているの、今回はそれを見ました。

14章と16章を見ると、父の家に戻ります。それで、教えることがあります。そして、15章にぶどうの枝の話があって、また、似たような御霊の教え、助け主が来るよという教えがあって、父の元から来たのです、そこに帰っていきますということで終わります。この、父の家に行く、父の元から来ました、というところを除いた部分の16章と14章というところが、17章の祈りの課題の4つと並行しているのではないかということです。

父の家に帰ります、来ましたというところは、この祈りのこの部分ですね。「父の栄光を現すときです」「元に帰ります」というこの短いところに並行しているかなという

ことです(17:1後半、17:11、17:13、17:24)。それと、聖なる父、正しい父よ、というのが、実は、13章と15章のところに、並行しているのではないかなということが、ここに書いてあります。13章の仕えるしもべ、17章の(25,26節)遣わされたこと、御名を知らせました、正しい父よ、良い父よ、仕えるしもべとして(13章)なして下さった正しいイエス様というところが、こちら(17:25-26)。そして、(15章)ぶどうの枝、愛すること、すぐること。こちらは、聖なる父よと言っているほうに並行しているかなということです。御名の中に保って、一つとなるためですということが、こちらの結論の短くまとめられている祈りになっているのではないかなということです。

あっちに行ったり、こっちに行ったりと複雑なのですが、形としては、この真ん中の祈りのところ(17:2-23)を、過越(17:2-5)、五旬節(17:6-10)、荒野(17:14-19)、仮庵(17:20-23)、という祭りの4つの段階、愛への道の4つの段階と見ていますけれど、その出だしのところ(13章、15章)、この愛の教えの出だしのところで、1(13章)と7(15章)。(終わりのところに)7(17:11-12)と1(17:25-26)というように、このたとえで教えているところの、まず、1。こちらが7。終わりのところに、7と1の短い言い方でまとめられているのだと思います。

この真ん中の祈りの中にも、1,3,40,7がもちろん入ってはいるのですが、特に、3番目と40番目がこの、14章と16章で強調されているところかなと。この真ん中(17章)とも並行しているのですよ。でも、特に、14章のほうは、3。みことばが与えられる、御霊が与えられるというようなことが中心に書かれ、40と書かれている16章のほうは、私はいなくなりますけれど、大丈夫です。迫害が来るけれど、悲しみが来るけれど大丈夫ですという16章です。私は世に勝ちましたというところで、段落が終わるはずですが。「世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世にかつたのです。(16:33)」強くあれ雄々しくあれというところで終わる患難があるけれども戦えるというところで、14章と16章が、大きな2つとして取り上げられているのではないかなということです。

13章が1、14章が3、15章が7、16章が40ということだろうということです。そして、その中がそれぞれ、また1,3,40,7の見方で見ることができるだろうと思います。1,3,40,7というストーリーを見たときに、リーダーが連れ出す側と、連れ出される側という2方向から見るができますので、そういう意味で、こちら(16章)は連れ出す側と、(14章)連れ出される子側ということが強調されているのではないかと思われま

す。14章のほうです。「父と子一つです(14:8-14)。「助け主を送っています。子らは一つになるために真理の御霊が与えられます。父にお願いすると与えてくれます(14:16-21)。「父のことばを送ったので、そのことばを守ってください(14:22-26)」「恐れるな。世を支配する者が来るけれど恐れるな(14:27-31)。」というところで終わりますので、父と子はひとつです。「父のわざを行う」というのが、ここにあったと思います。わざを示しなさいというところで(14:10-12)。

モーセのようにわざを行ってくれた。父をあらわすわざを行ってくれました(14:8-14)。そして、助け主を送ります。助け主を送って、助け主は共にいます。共に住んでくれます(14:16-21)。父のことばを送りましたから、父のことばを守ってください(14:22-26)。これは、モーセのわざとモーセのことばみたいな感じです。そして、恐れるな、平安を与えますから大丈夫です。恐れないで信じてついていく(14:27-31)ということなので、ここが、1と7と3と40というふうに区別しました。

もう一方の16章のほうは、「わたしは最初から一緒にいました。あなたはわたしといっしょにいたからです。それは、証ししてくれるのは御霊です。共にいたということを証

ししてくれるのは助け主、御霊です(15:26-16:4)。「その助け主は、さばきをなす方なのだ。この世をさばくさばき主だ(16:5-11)。」そして、「御霊が来ると教えてくれる、知らせてくれる、示してくれる(16:12-16)。」というところがあつて。最後の「悲しみが喜びに、悲しみが喜びに。喜びで満ち足りる(16:17-24)。」というところでここが終わっていくということなのですが、それは、最終的に共にいるということですので、7かなと(15:26-16:4)。

さばく方がさばいてくれて連れ出すということで、1(16:5-11)。御霊が知らせる、聞いたまを教える、示す、知恵を与えてくれる(ので3)(16:12-16)、そして、悲しみが喜びに至るまで耐え忍ぶということ(40)(16:17-24)なので、7,1,3,40と考えました。

それぞれが(14章、16章では)、順番が違いますけれど、上のほうは、1と7、7と1。下のほうは、3と40、3と40となっています。この4つの分類が、17章のこの祈りの4つの段落と並行していますよねということです。たとえば、ここ(17:14-19)の段落、世から守られる、世と聖め分かつという感じですね。世と戦っているのがここにありますね。14章のほうで言うと、世を恐れるな、世と戦うわけですね(14:27-31)。16章のほうで言うと、この世で悲しむ者は幸いです、喜ぶからですという戦いがここに書かれています(16:17-24)。このように40(17:14-19)、40(14:27-31)、40(16:17-24)を見るということです。

1番目のところ(17:2-5)に、永遠のいのちを与えるために子が遣わされました、父のわざをなす子が遣わされました。14章のほうで、その父と子はひとつのわざをなしている(14:8-14)。(16章のほうで)父と子がなしているわざを人々もできるようにしてくれるために、御霊が来ている、助け主が来ている(16:5-11)というよう感じです。子と(17:2-5)、子と(14:8-14)、さばく方(16:5-11)ということで、1、1、1というふうに並行を見てください。

(3)「ことばを守る(17:6-10)、父のことばを守る(14:22-26)、御霊がことばを知らせる(16:12-16)。」(7)「子らはひとつになる(17:20-23)。助け主と子らはひとつです(14:16-21)、主と子らはひとつです(15:26-16:4)。」ということで、ヨシュアの遺言と祈りが一致している。特に、子の働きについて教えている、子は誰なのかということを教えている14章。父を見せてくださいと頼んだりして…。御霊が働いて民を助けるという民側のことを話している16章ということで、教えに従ったかたちで祈りを捧げている。この祈りを捧げているということは、何度もあります。「私の名によって求めることは何でもします。」「私の名によって求めるなら何でもします。」「私の名によって求めるなら何でもします。」ということが何度も繰り返されています。これは、マタイの「求めよ。さらば与えられん。」、ルカの「求めよ。さらば与えられん。」のところにしているのと同じことです。

これは、最初にあるのというのは、民数記6章です。民数記6章(23-27節)に大祭司の祝祷というのがあります。アロンの子らはこのように祝福します。「アロンの子ら大祭司がわたしの名でイスラエル人のために祈るなら、わたしは彼らを祝福しよう。」ということです。ですから、大祭司である主イエス・キリストが父に祈った(ヨハネ17章)。この祈りは、御父、聖なる父、正しい父が聞いて、子らを祝福するという土台は、ここに(民数記6章)にあります。「主があなたを祝福し、守られる。御顔の栄光を照らして恵まれる。御顔の栄光を照らして平安を与える。」という祝祷の形にもなっているかな。(ヨハネ17章)恵みが与えられ、平安が与えられ、祝福のことばが与えられ、守られるというようなことかと思えますけれど、祈りが必ず天の御座に着いて答えてくださる。天の父が答える。そして、御子が答えることができるという頼むところ。その頼んでいる

内容は愛です。その愛を与えてくれます。愛を残すところなく語られたというのが、13章から16章だと思います。